

令和5年第1回(1月)臨時会

1月臨時会は、1月20日に開催されました。提出された議案は、訴えの提起1件と補正予算で、審議の結果、全会一致で原案可決しました。

主な内容は次のとおりです。

◎訴えの提起について

- ・市営住宅に係る滞納家賃の支払いを求めるため訴えを提起するもので、地方自治法第96条第1項第12号の規定に基づき議会の議決を求めたものです。

◎令和4年度二本松市一般会計補正予算

- ・物価高騰に伴う子育て世帯への支援をはじめ、緊急に措置すべき予算について計上しました。

歳出の主なもの

○民生費

- ・18歳以下の児童を対象とした子育て支援給付金支給事業 2億1,979万円

○商工費

- ・商店街等の店舗利用者を対象としたタクシーの利用料金に対する助成事業の実施に伴う商工団体等事業補助金の増 682万円

○消防費

- ・小型排水ポンプ用発電機購入に伴う水防対策経費の増 2,101万円

○災害復旧費

- ・福祉施設災害復旧事業費の増 138万円

令和4年度 福島県市議会議員研修会 1月27日

いわき市のパレスいわやで開催された令和4年度の福島県市議会議員研修会に20人の議員が参加しました。早稲田大学の政治経済学術院教授 稲継裕昭氏より「自治体DX（デジタルトランスフォーメーション）と議会におけるデジタル化の推進」を演題に講演いただきました。

講演では自治体におけるDX推進の意義として、自らが担う行政サービスについて、デジタル技術やデータを活用し、住民の利便性を向上させ、一人一人のニーズに合ったサービスを選ぶことで多様な幸せが実現できる社会をつくることと示されました。

また、新型コロナウイルス感染対策のなかで議会活動に制限がありましたが、オンライン機能を活用することにより、地域住民との意見交換やオンライン視察を行う自治体があり、経費削減にもつながるとの講演を拝聴しました。

住民と市をつなぐ架け橋として、大いに参考になる講演会となりました。



講演：「自治体DXと議会におけるデジタル化の推進」

令和4年度 市議会議員研修会 2月10日

令和4年度の二本松市議会議員研修会は、議員の資質向上及び議会のより一層の活性化を図ることを目的とし、国立大学法人福島大学学長の三浦浩喜氏（二本松市出身）を講師に招き、「ふるさとを元気にするために」～これからの教育と地域振興～を演題に開催しました。

講演では、これからの教育は、「昭和型」教育から「令和型」教育の転換（物理的变化から化学的变化）へ、前に進める必要性があり、地域の活性化は若者、よそ者、馬鹿者が大事であり、変化を楽しんで、混乱を恐れず、挑戦を面倒がらないことが大切であるとのアドバイスがありました。

これからを生きる子供たちにとって、地域を活性化するためには前提条件をつけず、何事にもチャレンジしていくことが大切であるとして、参考になる講演会となりました。



講演：「ふるさとを元気にするために」
～これからの教育と地域振興～